

日本データベース学会 Letters

編集方針と投稿規程，および論文様式

平成 14 年 7 月 16 日制定

平成 16 年 3 月 12 日改定

平成 16 年 6 月 2 日改定

編集方針と投稿規程

1. 日本データベース学会(以下、本学会という)は論文誌「日本データベース学会 Letters」(以下、論文誌という)を刊行する。英文名は、「DBSJ Letters」とする。
2. 論文誌は、本学会会員に資するために、データベース分野における最新の興味深い研究結果を、速報性に重点をあてて、簡にして要を得た論文として収録する。
3. 論文誌を刊行するために、本学会に日本データベース学会論文誌編集委員会(以下、編集委員会という)を設ける。
4. 編集委員会は、次に掲げる業務を行う。
 - (1) 広く本学会会員から論文を募り、論文誌を刊行する。
 - (2) 本学会が開催する研究会、ワークショップ、シンポジウム、あるいは大会等からセッションの座長推薦システムにより論文を募り、論文誌を刊行する。
 - (3) 本学会定款第 4 条の規定により、(社)情報処理学会データベースシステム研究会(以下、DBS 研という)、(社)電子情報通信学会データ工学研究専門委員会(以下、DE 研という)、ACM SIGMOD 日本支部(以下、SIGMOD-J という)と連携して、それぞれが主催・共催する研究会、ワークショップ、シンポジウム、あるいは大会等から、セッションの座長推薦システムで論文を募り、論文誌を刊行する。
5. 座長推薦システムで論文を募るとは、具体的には次の 3 ステップを踏むことをいう。
 - (1) 本学会が主催する研究会、ワークショップ、シンポジウム、あるいは大会等、本学会と DBS 研と DE 研が主催する「夏のデータベースワークショップ」、DBS 研が主催する「アドバンストデータベースシンポジウム (DBWeb)」、本会と DE 研が主催する「データ工学ワークショップ (DEWS)」、および SIGMOD-J が主催する大会等における発表から、当該セッションの座長が論文誌に掲載するに値するものを選出して、それらを編集委員会に推薦する。
 - (2) その推薦に基づき、編集委員会は発表者に論文誌への投稿を促す。
 - (3) 編集委員会から論文誌への投稿を促された発表者は、特段の事情がない限り、論文誌へ論文を投稿する。
6. 座長推薦システムにおいて、発表から当該セッションの座長が論文誌に掲載するに値するものを選出する場合、第 2 条に謳われた論文誌の目的に鑑みて、論文誌と「情報処理学会論文誌：データベース」(以下、TOD という)との差別化に留意すること。なお、論文誌と TOD との差異は、下に補足条項で言及しているとおりとする。
7. 座長推薦システムに基づき論文誌に論文を投稿する場合、第 5 条(1)項に記載した研究会等で発表した内容を基に論文を作成するものの、論文誌の性格や論文長の制約に鑑み、論文タイトルや章立てなどに変更を加え、編集し直した改訂版を投稿してかまわない。
8. 座長推薦システムで投稿されてきた論文は編集委員会が閲読して、その採否を最終的に決定する。
9. 座長推薦システム以外の方法で投稿された論文は、編集委員会が査読してその採否を決定する。
10. 本学会に投稿される論文の著作権 (copyright) は、最終原稿が本学会に投稿された時点で本学会に帰属する。
11. 著者は、投稿した論文を、それが論文誌に採録されるか否かを問わず、いつでも著作者自身あるいは著作者が所

属する組織体の Web サイトに掲載することができる。ただし、論文誌に掲載された論文については、論文誌の名称、巻号、開始と終了ページ番号、および発行年月を明記すること。

12. 採録された論文は論文誌に速やかに掲載する。
13. 論文誌は少なくとも年に 2 回刊行する。
14. 論文誌は電子的に出版する。具体的には、本学会の Web サイトのアーカイブに保存して、アクセス権のある本学会会員に公開する。
15. 論文様式は編集委員会が指定したものを使用し、論文は MS Word ファイル、あるいは Adobe Acrobat pdf ファイルとして編集委員会に電子メールに添付して投稿する。アドレスは次のとおりである：
dbsj-office@dbsj.org
16. 論文は、日本語あるいは英語の論文とする。日本語においては当用漢字を使用し、専門用語は JIS に準拠することとする。論文執筆にあたり不明な点は、編集委員会に問い合わせることが出来る。
17. 論文長は一編当り 4 ページ以下とする。
18. 論文掲載料は 1 ページ当り 5 千円とする。
19. 論文の主著者に、論文の収録されている論文誌のハードコピーを 10 冊贈呈する。
20. 論文誌のハードコピーは本学会維持会員に 1 冊贈呈する。
21. 編集委員会は論文誌のハードコピーを寄贈することができる。
22. 編集委員会は論文誌のハードコピーを頒布することができる。
23. 論文誌刊行は基本的に各号ごとの独立採算制を基本とする。

[補足条項]

第 6 条で謳われている差別化とは、論文の推薦基準を、速報性、萌芽性、新規性、有用性、完全性、信頼性においた場合、論文誌に収録される論文と TOD に収録される論文の性格の違いが、概ね図 1 に示されるレーダチャートの違いにより表現されることを意味する。

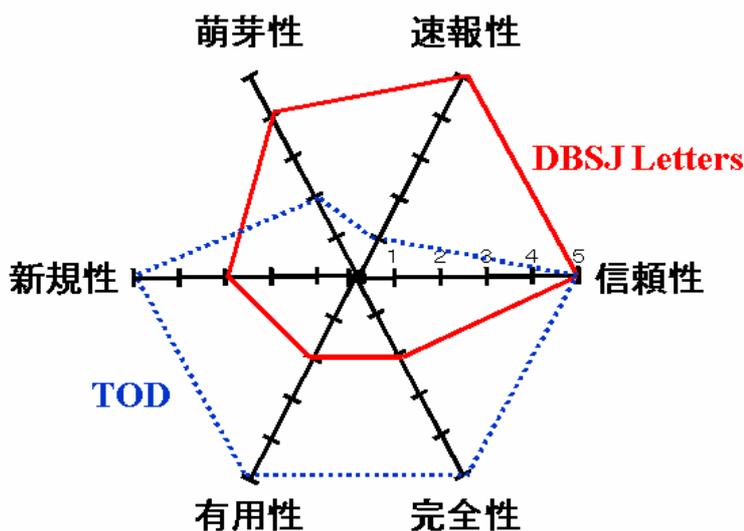


図1 TODと比較したDBSJ Letters の編集方針

論文様式

1. MS Word 文書としてサンプルを添付するので、それを参照しながら、下記の補足事項を読解願いたい (MS Word 文書のファイル名は LeSample)。論文を執筆するときは、それをコピーして下敷きで使用されることを勧める。MS Word ファイルを読めない環境におかれている方のために、サンプルを Adobe pdf ファイルとしても添付してあるので、ご利用ください。
2. 原稿は、A4 版、余白 (上 20mm、下 30mm、左 15mm、右 15mm)、2 段組
3. ヘッダー、フッターは添付のサンプルファイルどおり。ヘッダーには論文という文字と DBSJ Letters 巻号、そして本文との区分線を書き入れる。フッターにはページ番号 (1 ページから始める)、日本データベース学会 Letters を書き入れる。
4. 邦文タイトル: MS ゴシック、太字、16 ポイント (あるいは、同等。以下同じ)
5. 英文タイトル: Century, Bold, 12 ポイント
6. 邦文著者名: MS ゴシック、太字、14 ポイント
7. 邦文著者の各著者に脚注で現在の所属と e-mail アドレスを記す。脚注の記号は自由とする。
8. 英文著者名: Century, Bold, 10.5 ポイント
9. 英文著者名と次に続く邦文アブストラクトは 2 行改行
10. 邦文アブストラクト: 標準 MS ゴシック、太字、9 ポイント
11. 邦文アブストラクトと次に続く英文アブストラクトは 1 行改行
12. 英文アブストラクト: Century, Bold, 9 ポイント
13. 英文アブストラクトと次に続く第 1 章タイトルは 1 行改行
14. 章タイトル: 標準 + MS ゴシック、太字 (12 ポイント)
15. 本文: 標準 MS 明朝、9 ポイント
16. 章末と次章の章タイトルは 1 行改行
17. 節タイトル: 標準 + MS ゴシック、太字 (10.5 ポイント)
18. 小節(節の節、例えば 3.2.2)のタイトルも節タイトルに準ずる。
19. 現在の節と続く節のタイトルの間には 1 行の改行不要
20. 文献は [文献] で、標準 + MS ゴシック、太字 (10.5 ポイント)
21. 文献番号は、出現順に [1], [2], ... と付与していく。文献の本文と共に 9 ポイント。邦文は MS 明朝、英文は Century
22. 文献の書き方は、サンプルを参照のこと
23. 論文末の著者紹介: 氏名は標準 MS ゴシック、太字 (10.5 ポイント)。紹介文は標準 MS 明朝 (9 ポイント)
24. 挿入する図表は直前の文章との間に 1 行の改行不要
25. 英文論文は、邦文のところの記載が省けますが、フォントは Century で上記に指定されたポイントや Bold の有無に従ってください。

[補足事項] DBSJ Letters の論文は (最長) 4 ページなので、内容を欲張らずに、起承転結を効かした構成で望むと書きやすい。本文は MS 明朝の 9 ポイントなので、文章だけだと、1 ページに約 3,000 字入ります。したがって、仮に、タイトルと著者と邦文と英文アブストラクトで半ページ (= 1 ページ目の左カラム) を費やし、最後に文献と著者紹介で 4 ページ目の半分 (= 4 ページ目の右半分) を費やしたとすると、正味 3 ページ書けますので、約 9,000 字書けます。これは、まあまあの分量です。

(以上)